

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:山崎雄大 共同研究者:(滋賀県総合教育センター 石垣秀憲・竹内佳緒里)

所属:滋賀県立鳥居本養護学校 記録日:令和3年2月18日

キーワード: 準ずる教育課程(外国語科 英語) 学習意欲・自信の向上 Pepper 英単語アプリ

【対象児の情報】

・学年

中学部3年生

・困難の内容

準ずる教育課程で履修している。高校進学に向け、学力の向上を目指している。

英語学習に苦手意識を抱いており、意欲や自信に乏しい。

学習内容の定着も難しく、実態に応じた支援を要している。

【活動目的】

・当初のねらい

(1) 中学部卒業後を目指して、本人の実態に配慮しながら英語でのやり取りの充実を目指す。

(2) 文法理解や英単語などの苦手意識を少しでも軽減し、自信へと繋げる。

(3) ICTを効果的に活用した、本人の実態に応じた支援を展開することで、学習保障や積み上げを目指していき、本人が希望する進路へと繋げていく。

(4) ICT機器の有用性に気付き、将来自身で活用しようと思えるような経験を積み上げる。

・実施期間 令和2年6月2日～令和3年3月31日

・実施者 山崎雄大

・実施者と対象児の関係 教科(外国語科 英語)担任

本校概要及び校内体制について

・本校は、隣接している児童心理治療施設に児童相談所の措置を経て入所する児童生徒が通学する学校である。

・本校は病弱単一の養護学校であり、教科に準じた教科指導を行っている。

・小、中学部では、地域の学校と同様の教科書を用いた教科担任制で授業を実施している。

・英語の教科書は東京書籍の「NEW HORIZON」である。

・生徒個々の履修状況や学習の程度に違いがある場合、必要に応じて学習グループを分けて授業を行っている。

・授業時間は50分で、5教科の授業時数は週3時間である。

・中学部卒業後の進路先として、本校の高等部か県内高等学校があり、各生徒の希望や実態に沿って進学先を決定していく。

【活動内容と対象生徒の変化】

対象生徒の事前の状況

1 本校転入前の様子(～平成31年3月末まで)

- (1)地域の中学校の通常学級に在籍をしていた
- (2)転入前は、児童相談所への一時保護や保健室利用などにより、学習の遅れが見られた。
- (3)好きな教科、嫌いな教科の差が激しく、英語は苦手意識が強かった。

Figure 1 shows 11 English test questions and answers. Questions 1-6 are on the left, 7-11 on the right. Some answers are handwritten in red ink, such as '動物' for Q2, 'family' for Q4, and 'What do you play in the gym' for Q6.

(図1)

(図1)は本校転入前(中学1年生3月末)に体験入学で取り組んだ問題プリントである。学習の定着が見られず、解答用紙にも白紙が目立つ。英語の「読み・書き」を特に苦手としており、「難しかった。全然解らなかった」と発言していた。英語の苦手意識が強く窺われた。

2 対象生徒の本校転入後の様子(平成31年4月～令和2年3月まで)

(1)英語の授業において

(昨年度の支援)

- ①学習の定着度を鑑み、英語のみ学び直して授業を進めた。下学年内容の中1Unit2～中2Unit1まで履修した。
- ②本人の実態から、Microsoft PowerPointや教材プリント等の視覚支援を活用することで、書字への配慮を行った。

(授業の様子)

- ①リスニングや聞き取った英文を再生することは得意なようであり、聴覚的な短期記憶の強みが窺えた。
- ②文法事項の積み上げや英単語の積み上げが難しく、定着までは至らなかった。
- ③英単語の「書き」においては課題があり、アルファベットが1文字足りない、配列が正しくないなど見られる。
- ④1対1の授業により、言語活動の設定が不十分であった。
- ⑤英語への苦手意識は強く、「難しい」「解らない」という思いは継続して抱いていた。

(昨年度の定期テスト結果)

1学期中間テスト	1学期末テスト	2学期中間テスト	2学期末テスト
73点	45点	22点	65点

※3学期に実施する学年末テストは休校により未実施である。

(2) 対象生徒の思い

[教科に関して]

- ① 今年受験があるため、苦手教科が分かるようになりたい。
- ② 勉強を頑張り、テストで良い点を取りたい。

3 対象生徒について(～令和2年3月末まで)

(1) 学習面

- ① 国語力は学年相応の力をもっており、作文や漢字などは得意である。

(2) 認知面

- ① 聴覚過敏の様子が見られ、集団や騒がしい環境を苦手としている。
- ② 「書いているときに話をされると混乱する」という発信があった。
- ③ 言葉だけの指示や説明だけでは理解や定着に至りにくい。

(3) ICT 活用に関して

- ① これまで ICT 機器に触れる経験が乏しく、本人も苦手意識をもっている。キーボード入力ができる。

上記の実態を基に ICT 実践による仮説を下記に表す。



仮説に基づいた ICT 実践のねらいを下記にまとめる。

(1) 言語活動の充実

・Pepperを活用し、聞く力を活かした話す活動の充実を目指す

(2) 英単語、英文法の定着

・英単語アプリやPowerpointを活用し、見る力の強みや書字の実態等に応じた支援を展開する

(3) 苦手意識の軽減

・iPadを活用し、読める、意味の解る経験を積み上げ、意欲や自信を高める

(4) ICT活用経験の積み上げ

・ICT活用の経験を積み上げ、有用性に気付くことで主体的な活用へとつなげる

活動の具体的内容(英語の学習)

○授業の流れ

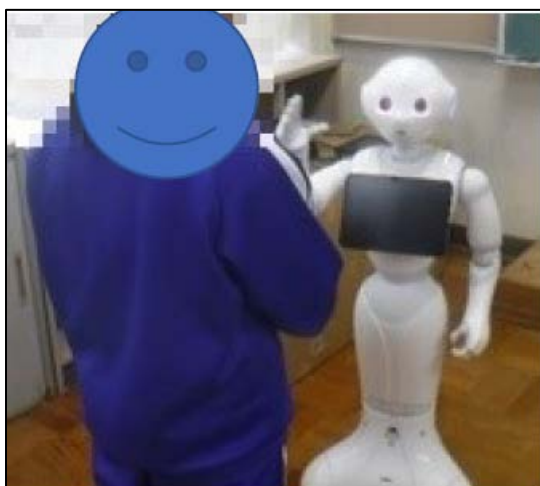
- ①Pepperとあいさつ
- ②Pepperとの Warming-up
- ③iPad を用いた英単語アプリ
- ④教科書の学習

教科書の学習は、見開き1つの部分を2時に分けて進める。

1 時目は新出単語と新出表現を、2 時目は教科書の本文と新出表現を用いた言語活動に取り組む。

(1) 言語活動の充実のための取組

①Warming-up



(図2)

Question	Answer
① How are you?..	I'm good..
② What were you doing at six P.M.?..	I was playing volleyball then..
③ What are you going to do next week?^	I am going to study English.^
④ What do you want to be in the future?^	I want to be a scientist.^
⑤ Is there a gym in your school?..	Yes, there is. / No, there isn't..
⑥ Do you like watching soccer?..	Yes, I do. / No, I don't..
⑦ Are you taller than Mr. Yamazaki?..	Yes, I am. / No, I'm not..
⑧ What is the highest mountain in Japan?	It's Mt. Fuji..

(図3)

毎時間始めに5分程度授業のウォーミングアップとして Pepper と英語でやり取りをし、定型の会話として英文の定着を図る。(図2)

英文は5W1H を中心とし、授業で扱った新出表現も取り入れることでたくさんの表現に触れる。(図3)はウォーミングアップで使っているプリントである。

②新出表現(文法)を用いた言語活動



(図4)

新出表現(文法)を基に、Pepperとのやり取り(「聞く」「話す」活動)を通して、会話として英文の定着を図る。(図4)

英文に対する自身の思いや考えを英語で書いて表す。

また、Pepperとのやり取りを通して、Pepperの意見を聞き取り、答えを(図5)のプリントに英語で記入する。

iPadを用いてネット検索をし、調べた内容について新出表現(文法)を用いて英文に書いて表す。

Speak&Write

自己表現

今月の予定について次の質問に答えよう。結果を表にまとめよう。

Your answer

Will you go shopping this month?

Will you watch a movie this month?

Will you study English this month?

Will you play the piano this month?

Will you visit *Shiyamadera* this month?

Pepperの答えを聞き取り、表にまとめる

Pepper's answer

go shopping	watch a movie	study English	play the piano	visit <i>Shiyamadera</i>

(図5)

③Pepperへのインタビュー活動

質問したいことをまとめる

答えを予想する

答えを聞き取りまとめる

Tell us about Pepper !

質問 Question	
予想 Expectation	
Pepperの答え Pepper's answer	

(図6)

Pepperへのインタビュー活動を通して、英文を書く、話す、聞く活動の充実を図る。

(図6)はインタビュー用のプリントである。Pepperの答えを聞き取ったものは校内へ掲示し、周囲にも取組を知ってもらう機会とする。

(2)英単語、英文法の定着のための取組

①英単語の学習



(図7)

英単語の綴りの学習は「発音とタッチで覚える中学英単語 1200」を活用する。(図7) 英単語の綴りを単語の発音を聞き、音声を基にアルファベットを当てはめるといふ並び替え形式で繰り返し練習する。

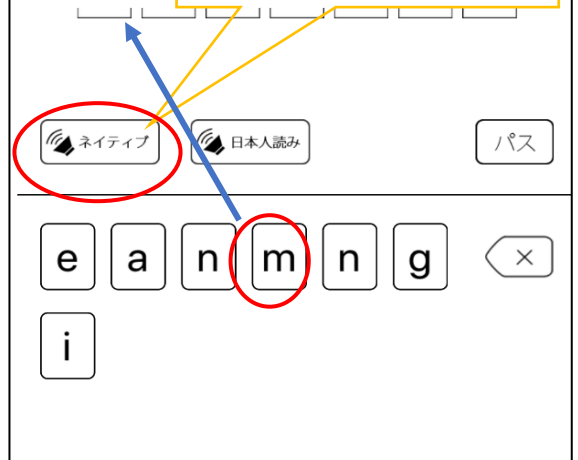
(図8)は操作画面である。穴埋め形式の並び替えなので、英単語学習でアルファベットが足りない、順番が正しくないといった苦手意識のある本生徒にとって取り組みやすいアプリである。

繰り返し取り組む中で、「並び替え形式ではなくキーボード入力で練習がしたい」と本人から発信があったため、キーボード入力での練習も取り組む。

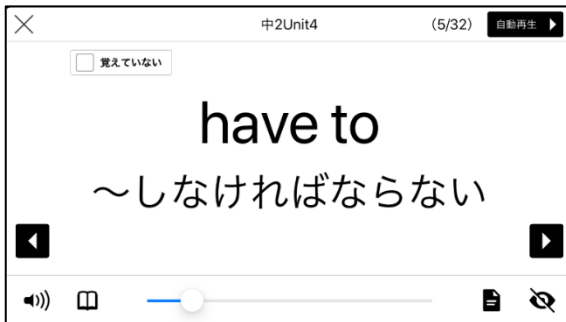


3：意味

発音を聞き、音声を基にアルファベットを当てはめる



(図8)



(図9)

英単語の意味の学習は「すごい英単語帳! 中学～大学入試全範囲対応」をモニターに提示し、発音や意味を確認しながら練習する。(図9)

②英文法の学習

視覚的な支援を活用しながら学習を進めた。

教科書の文法事項の導入で、Pepperと教師のモデル会話(図10)を聞き取り、大意や会話場面などを確認し、プリント(図13)にまとめる。



(図10)



Introduction

山崎先生とPepperとの会話を聞き取ろう。

- 山崎先生はPepperに、放課後(**買い物に行こう**)と言った。
- Pepperは、(**宿題**)をしなければいけないから行けないと言った。
- Pepperは勘違いをしており、(**宿題**)をする必要はなかった。

それぞれについて、Pepperはこう表していました。

- I **have to do** English homework after school.
- I **don't have to do** English homework.

Pepper と教師の会話をスライドで提示し確認する

(図11)

会話の内容をスライド(図11)で提示し、内容や実際の英文を視覚的に確認する

基本文10 have to + 動詞の原形

○「～しなければならない」を用いた表現

have to + 動詞の原形 = 「(動詞の原形を)しなければならない」

I **have to** speak English.

(私は 英語を 話さなければなりません。)

・「～しなければならない」と必要性や義務を表すには、
(have) + (to) + (動詞の原形) を用いる。

・否定文では「～しなくてもよい」という意味になる。

do not have to + 動詞の原形 = 「(動詞の原形を)しなくてもよい」

I **do not have to** speak English.

(私は 英語を 話さなくてもよい。)

・主語が三人称単数のときは、(has to) (does not have to) となる。

(図12)

教科書の基本文の学習では、内容を PowerPoint のスライド(図12)で提示し、要点をプリント(図13)にまとめる。

PowerPoint のスライドとプリントは一致したものを作成することで、視覚的に迷わないよう支援する。

処理速度の実態から、書字の負担軽減となるよう、重要事項のみをまとめる。

Unit 4 Homestay in the United States part1

(図11)
と一致

Introduction

山崎先生と Pepper との会話を聞き取ろう。

- ・山崎先生は Pepper に、放課後 () と言った。
- ・Pepper は、() をしなければいけないから行けないと言った。
- ・Pepper は勘違いをしており、() をする必要はなかった。

○「～しなければならない」を用いた表現

I **have to** speak English.

()

・「～しなければならない」と必要性や義務を表すには、
() + () + () を用いる。

・否定文では、「 () 」という意味になる。

I **do not have to** speak English.

()

・主語が三人称単数のときは、() () となる。

Speak&Write

下線部に、自分の学校でする必要のあることや、しなくてよいことを例にならって書きましょう。また、Pepper と対話し、Pepper の意見も聞き取ろう。

例 We have to [don't have to] clean our classroom.

[する必要のあること]

①言語活動(2)
で用いる

[しなくてよいこと]

(図13)

③教科書の本文の学習

Homestay Advice.

(ホームステイのアドバイス)

You're a member of the family.

(あなたは家族の一員です。)

have to + 動詞の原形 = 「～しなければならない」

You **have to** follow the family's rules.

(あなたは 家族のルールに 従わなければなりません。)

have to + 動詞の原形 = 「(動詞の原形を)しなければならない」

You **have to** speak English here.

(あなたは ここで 英語を話さなくては なりません。)

don't have to + 動詞の原形 = 「(動詞の原形を)しなくてもよい」

But you **don't have to** speak perfect English.

(しかし、あなたは 完璧な英語を話さなくてもよいのです。)

Communication is important.

(コミュニケーションが大切です。)

(図14)

教科書本文では、PowerPoint のスライド(図14)で提示する。提示された要点(新出単語や文法事項、熟語など)を一つひとつ確認し、ノートにまとめる。

(3) 苦手意識の軽減のための取組

「Google 翻訳」



日本語を話すと英語に訳す
英語の発音で綴りが確認できる

iPad に英単語を書くと意味や発音
が確認できる

カメラでかざすと訳される



分からない英単語や英文などは「Google 翻訳」(図15)を用いて意味や発音、綴りなどを調べる。

調べるときは、カメラ入力や手書き入力、音声入力などをそれぞれの場面に応じて使い分ける。

(図15)

対象生徒の事後の変化

1 授業の様子

(1) 学習意欲・自信について

実践に取り組む中で、周囲に「英語の授業が楽しい」「英語が解るようになって面白い」という発言が見られたり、教科書の本文を自主的に訳してくるなど学習に対する意欲的な姿が見られたりするようになった。

実践開始前までは英語は苦手教科として捉えていたが、自身の実態に応じた支援や取り組みを通して得意な教科として捉えるようになった。

(2) 英語の4技能について

英語の発音が非常に流暢になり、読みの力の向上が見られた。

昨年度は、学習内容は時間が経つと忘れてしまうことが多かった。今年度は、Pepper とのやり取りを繰り返す中で、文法事項の定着が見られるようになった。今年度1学期に学習した文法などもフレーズとして定着している。

4技能の内、特に「聞く」活動に対する自信がより高まった。実力テストの問題では、リスニング問題は満点を目指すという前向きな姿が見られるようになった。また、教科書のリスニング問題でもほぼ正答が見られるようになった。

意味の解る、読める英単語が増えたことで、教科書の英文の大意を自力で理解することができるようになった。

(3) ICT 活用について

「発音とタッチで覚える中学英単語 1200」を用いた英単語の綴りの学習では、初めは並び替え形式で取り組んでいたが、綴りの定着が見られるようになった頃からキーボード形式で練習をしたいと自ら発信をしてきた。

実践当初は、分からない英単語があると困っている姿が見られたため、「Google 翻訳」の活用を教師が促して対応していた。実践を繰り返す中で、解らない英単語があると、主体的に「Google 翻訳」を活用できるようになった。

「Google 翻訳」をくり返し活用する中で、場面に応じた調べ方を身に付けることができ、調べる時間の短縮につながった。本人自身も、ICT 機器活用スキルの向上を自覚できた。

(4) 日常生活について

後輩に英語の宿題を教えるようになった。学習内容の定着だけでなく、英語を通して他者と関わる経験となり、本人の自信となった。

2 定着の様子

② 次の日本語を英語に直しなさい。(1点×10=10点)

① (...を) 忘れる forget ② ...に乗る ride ride

③ ...を思い出す
覚えている remember ④ 滞在する stay

⑤ ...を洗う wash ⑥ ...に聞こえる hear

⑦ tellの過去形 told ⑧ ...が必要である need

⑨ ほほえみ
笑顔 smile ⑩ 高さが...である tall tall

1字足りない

(図16)は1学期末定期テストの英単語の解答である。
細かなミスはあるものの、意味と発音のつながり、視覚的な定着などは窺える。

順番の間違い
用いる文字は理解できている

母音の間違い(oとa)
「トール」という発音は理解できており、アルファベットに当てはめようとしている

(図16)

実践を繰り返すことで

② 次の日本語を英語に直しなさい。(1点×10=10点)

① ...をおくる
送信する send ② ...を押す push

③ sitの過去形 sat ④ feelの過去形 felt

⑤ mistakeの過去形 mistook ⑥ 考え idea

⑦ 安全に safely ⑧ 簡単に
容易に easily

⑨ 公衆の
公共の public ⑩ プラスチックの plastic

(図17)

(図17)は2学期末定期テストの英単語の解答である。
日本語の意味と発音が定着し、発音と文字とが正しく結びついている。

英語 解答用紙

1

(1) ①	イ	②	子	③	イ
(2) ①	ア	②	ア	③	イ
(3) ①	くもり	②	金	③	母
				④	魚

(図19)

(図18)は1学期末テストの長文分野の解答である。
(図19)は11月に実施された、市内統一テストのリスニング分野の解答である。

実践を通して各分野で満点を取ることができ、学習の積み上げだけでなく本人の自信にもつながった。

⑧ さくらさんは、英語の授業でブラウン先生 (Mr. Brown) のインタビューテストを受けています。対話文を読んで、あとの問いに答えなさい。(24点)

Mr. Brown: Do you have any plans for "Golden Week?"
Sakura: Yes. ① I'm going to visit my grandmother in Tokyo.
Mr. Brown: I see. What are you going to do in Tokyo?
Sakura: We are going to visit a temple in Asakusa and then go to a tall tower near the temple.
Mr. Brown: Wow, great! What's the name of the tower?
Sakura: ② We call it "Tokyo Skytree."
Mr. Brown: How tall is it?
Sakura: It's 634 meters tall.
Mr. Brown: (③)
Sakura: This Saturday, May 2.
Mr. Brown: How long are you going to stay in Tokyo?
Sakura: For four days. What are you going to do during the holidays?
Mr. Brown: (④)

* grandmother:祖母 temple:寺 then:それから tall:高い Tokyo Skytree:東京スカイツリー

(1) さくらとおばあさんは東京のどこをたずねるつもりですか。日本語で2か所答えなさい。(2点×2=4点)
(あさか (お寺)) (東京スカイツリー)

(2) さくらは何日間東京にいる予定ですか。日本語で答えなさい。(2点)
(4日間)

(3) 下線部①の英文を日本語に訳しなさい。(3点)
私は東京にいる祖母を訪ねる予定です。

(4) (②) に適する英単語を1語書きなさい。(3点)
to

(5) 下線部③の英文を日本語に訳して書きなさい。(3点)
私はおばあさんを東京スカイツリーと呼びます。

(6) (④) に適する質問として適切なものを1つ選び、記号を書きなさい。(2点)
① Where are you going to stay?
② When are you going to leave?
③ When did you come?
(①)

(7) 対話の内容に合うように、次の問いに英語で答えなさい。(3点)
How tall is Tokyo Skytree?
It's 634 meters tall.

(8) ブラウン先生になったつもりで、(⑤) に入ることばを自由に考え、英語5語以上で書きなさい。(4点)
I'm going to run in the park.

(図18)

【報告者の気づきとエビデンス】

主観的気づき

「Google 翻訳」を活用し、場面や状況に応じた調べ方で解らない英単語の意味や綴りをその都度確認することができた。これまで解らないことで苦手意識を感じていた英語の学習において、自身で ICT 機器を効率よく活用することで意味や綴りが解った経験を積み上げたことが、英語学習への苦手意識軽減につながったのではないかと考える。

ネイティブの発音をする Pepper とのやり取りや iPad の音声を聞くことを毎時間取り組むことにより、英語の発音の力が向上したのではないかと考える。

生徒でも教師でもない役割の Pepper は、プログラムされたやり取りのみ応答するため、予想外の会話が発生しない良さがある。実践開始前は他者とやり取りをしたいと思っていなかった対象生徒は、Pepper と安心感をもちながら応答する経験を積み上げることができたため、下記アンケート結果にも示される言語活動への前向きな思いへとつながったのではないかと考える。

英単語の綴りの練習は、並び替え形式の解き方やキーボード入力の解き方で取り組むことが定着につながった。これは生徒が問題を解くときの負担が小さく、視覚的、感覚的に取り組むことができ、発音と日本語の意味も同時に確認ができたことで、英単語力の向上につながったのではないかと考える。

エビデンス(具体的数値など)

1 生徒アンケート結果から

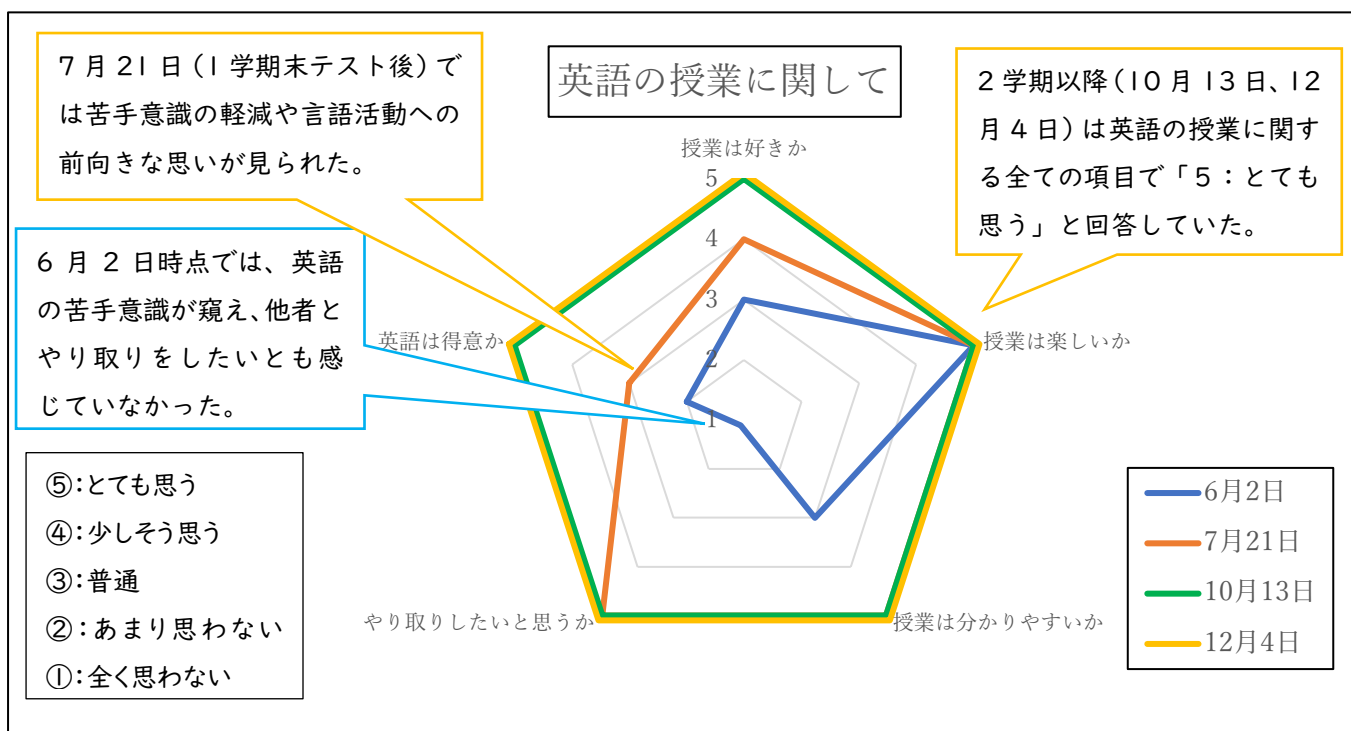
対象生徒に授業アンケートを計 4 回実施し、(1)英語の授業に関して、(2)英語に関する 4 技能(「書くこと」「話すこと」「読むこと」「聞くこと」)に関して、(3)ICT 活用に関して聞き取った。(図20、図21、図22)

アンケートの実施日は実践開始前の 6 月 2 日、1 学期末テスト後の 7 月 21 日、2 学期中間テスト後の 10 月 13 日、2 学期末テスト後の 12 月 4 日の計4回である。

アンケートは 5 段階の評価尺度をとり、それぞれ以下のような段階分けて実施した。

⑤:とても思う ④:少しそう思う ③:普通 ②:あまり思わない ①:全く思わない

(1) 英語の授業に関して

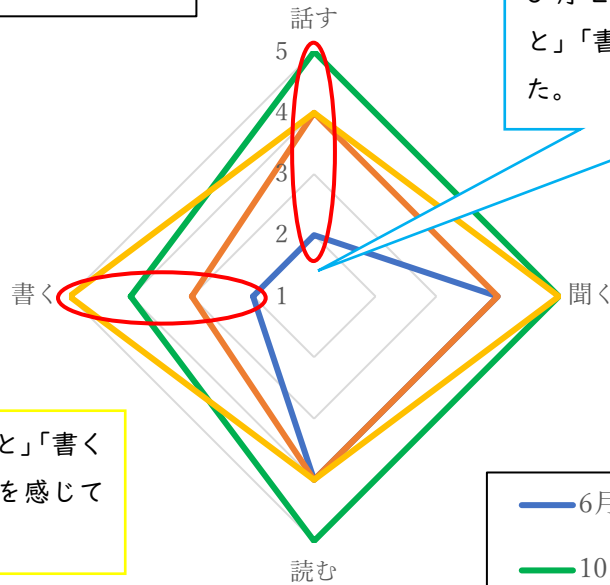


(図20)

(2) 英語に関する 4 技能に関して

4 技能に関して 自信があるか

- ⑤: とても自信がある
- ④: 少しそう思う
- ③: 普通
- ②: あまり思わない
- ①: 全く思わない



6月2日時点では、特に「話すこと」「書くこと」の苦手意識が窺えた。

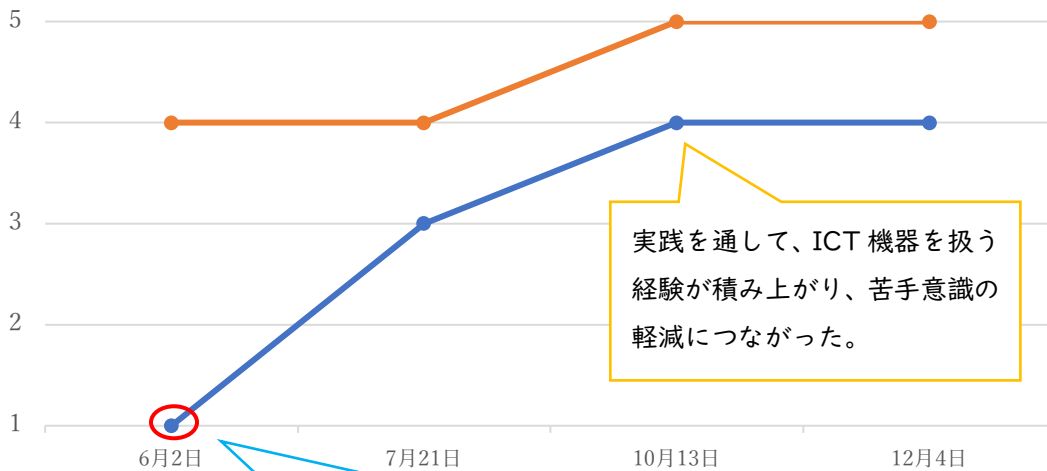
実践を進める中で、「話すこと」「書くこと」において積み上がりを感じている。

- 6月2日
- 7月21日
- 10月13日
- 12月4日

(図 21)

(3) ICT 活用に関して

ICT活用に関する気持ちの推移



- ⑤: とても思う
- ④: 少しそう思う
- ③: 普通
- ②: あまり思わない
- ①: 全く思わない

実践を通して、ICT 機器を扱う経験が積み上がり、苦手意識の軽減につながった。

ICT 機器の経験に乏しいため、6月2日時点では苦手意識が窺えた。

- ICTは得意か
- ICTを使えるようになりたいか

(図 22)

2 定期テストの結果の推移から

(1)今年度(中学部3年生時)の定期テストの結果

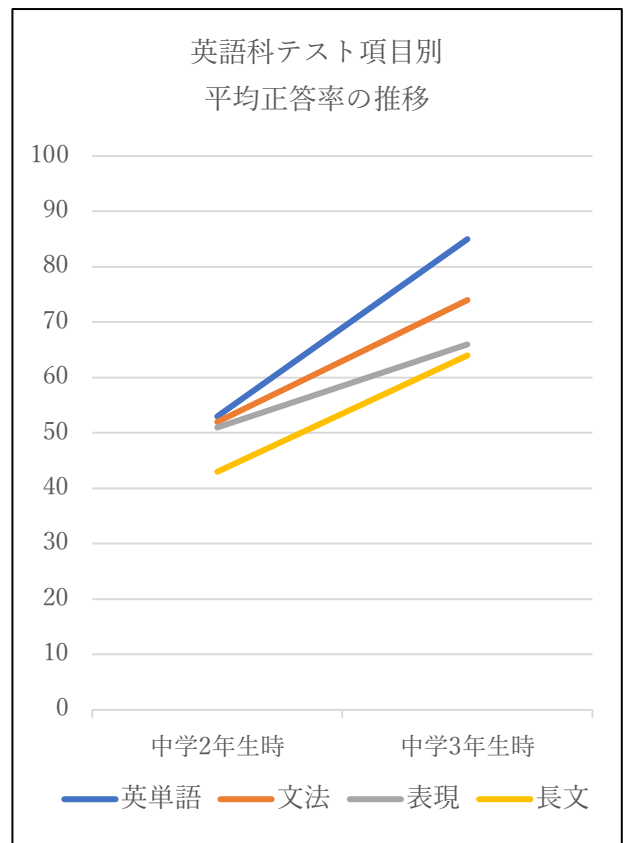
1 学期末テスト	2 学期中間テスト	2 学期末テスト
74 点	73 点	70 点

※1 学期中間テストは休校により未実施である。

図23は実践開始前(中学部2年生時)と実践開始後(中学部3年生時)の定期テスト結果の項目別平均正答率を比較し、変容を表したものである。下記表はそれぞれの年度における平均正答率をまとめたものである。

(2)平均正答率の推移

	2 年生時	3 年生時
英単語	53%	85%
文法	52%	74%
表現	51%	66%
長文	43%	64%



(図23)

対象生徒は、実態に応じた ICT 機器を活用することで、英語学習への苦手意識の減少や自信の積み上げが実感でき、また学習内容の定着が図れたことがアンケート結果や定期テスト結果の推移から窺える。特に、「英語科の授業に関するアンケート」では、実践開始前は英語学習の苦手意識や他者とのやり取りの意欲が低下している実態であった。しかし、ICT 機器を活用することで、苦手の軽減ややり取りの意欲が見られるようになり、2 学期以降のアンケートでは、どの質問項目にも「⑤ とても思う」と回答するようになった。それに伴い、「英語科の4技能に関するアンケート」でも、苦手と感じていた「話すこと」「書くこと」の項目では、Pepper との言語活動や iPad の英単語アプリの取り組みを通して自信が積み上がったことも窺える。「ICT 活用に関するアンケート」では、実践を進める中で、段々と ICT を活用することに自信を抱くようになってきた。また、「Google 翻訳」を授業内で活用する経験を通して、ICT 機器の有用性も感じるにつないった。現在では、「解らないこと=ダメ」ではなく、「解らない=ICT 機器を活用して調べるとよい」という考えが生徒自身に根付いている。定期テストの推移に関しては、「英単語」「文法」「表現」「長文」のどの項目においても正答率が伸びていることは明らかであり、特に苦手意識を感じていた「英単語」「文法」における正答率の向上は大きいことが結果として現れている。以上のことから、実態に応じた ICT 機器を活用することで、苦手意識の減少や学習内容の定着、学習意欲のさらなる向上へとつながったと考えられる。

(3)生徒アンケート結果及び定期テスト結果の推移から

対象生徒の実態

- ・処理の遅さ
- ・英単語の苦手さ
- ・文法の定着の難しさ
- ・1対1の学習環境
- ・「聞くこと」の強み
- ・聴覚的短期記憶が強い

○やり取りを中心とした学習

- ・「聞くこと」の強みを生かすことで、Pepperとの会話練習やアウトプット主体の学習を通して、文法事項や構文を会話として定着できた。
- ・やり取りができる経験から「やり取りをしたい」という意欲につながった。
- 文法を一つひとつ積み上げる(インプット主体)学習方法は、意欲の低下になる。

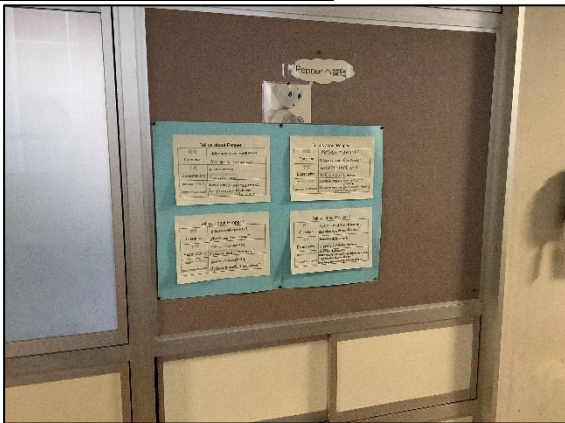
○単語アプリを活用した学習

- ・感覚的に操作しながら意味、発音、綴りがセットで確認でき、英単語の発音と文字を一致させ、単語習得ができた。
- ・繰り返し取り組む中で、フォニックスのパターンが自然と身に付いた。
- 何回も書いて練習するのは非効率で実態に合わず、本人の定着にならない。

○辞書アプリを用いた学習

- ・意味、発音、綴りが分からない単語でも、Google翻訳ですぐに確認できることが、苦手意識の軽減に大きく影響した。
- ・時短になるので学習に対するモチベーション低下とならなかった。
- 紙の辞書は時間がかかり、履歴も残らない。音声での確認もできない。

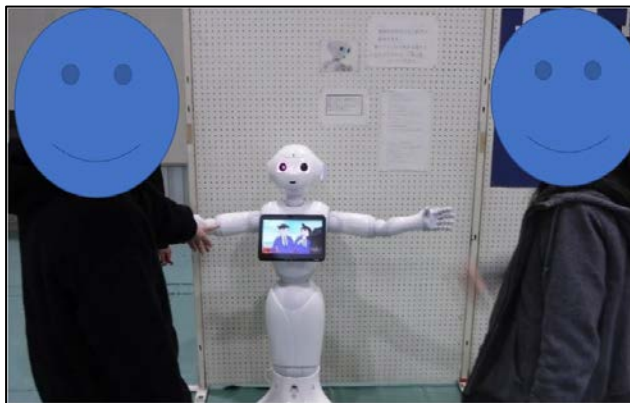
その他エピソード(画像などを含めて)



(図24)

(図24)は、(図6)のPepperへのインタビューシートが掲示されている実際の写真である。

下学年の生徒が掲示されているインタビューシートを見ている横で、対象生徒が内容を教える姿が見られた。



(図25)

(図25)は、Pepperに自己紹介を発表させるプログラムを作成し、文化祭で展示した様子である。

下学年の子どもに英語の内容を教えたり、学園や学校の職員に説明をしたりする姿が見られた。

プログラムを作成しているときは、聞き手にとって分かりやすいものになるよう、英語を話す速さや声の高さを何回も繰り返し調整する姿が見られた。

英語を教えたり、周囲に「すごい」と評価してもらえたりしたことが、生徒自身に良い経験となった。

(図24)(図25)の取組を通して、教科としての学習内容の積み上げだけでなく、周囲と関わる場面も設定された。苦手意識を感じていた英語の学習成果を周囲に興味をもって見てもらい、頑張りや評価してもらうことは、対象生徒にとって自信や意欲の向上だけでなく、周囲と良好な関わりをもつことができた機会ともなった。

下記は、対象生徒がアンケートの中で本実践における ICT 活用に関する思いをまとめた文章である。

今まで、意味や発音が分からず、つづりが分からなかったけれど、iPadを使って
単語の練習をしていると、つづりがほとんど合うようになってきて、テストなどでもしっかりと
その結果が出るようになってきました。なので、ICT機器を使い、何度もくり返し練習することで、
色々な苦手なところが次々と克服できるようになっていったので、ICT機器を使った学習
はとてもやりやすいし、自分に合っている方法だと思っています。

ICT 機器を活用することで、苦手意識の軽減が実感でき、学習意欲や自信が向上できたことは、対象生徒にとって本実践を通した一番の成果であったと思われる。解らないことがダメなのでなく、解るための手段や方法を理解し、それを主体的に選択・活用することができるような場面を、今後の学習活動でも継続して設定していこうと考える。